

○木質バイオマス事業と福祉施設への熱供給計画について



議員

施設改修費の試算は

町長 ケアハウス3200万円、
ののか2000万円程度

議員

平成19年に「津別町バイオマスタウン構想」を策定し、木質ペレット製造施設の建設、公共施設にボイラーを導入し、活用推進をしてきている。木質ペレット、チップを製造する原料として再生材・未利用材の割合については。

町長

建築廃材などは使用せず、森林整備や河川改修等の追加工材や不用木など、未利用材を原料としています。

議員

ペレット、チップの原料は、町内で賄えているのか。

町長

原料は全て町内産ですが、農畜産物、飼料用等のチップ原料について、一部町外から調達報告を受けています。

議員

3福祉施設（達美地区）の熱供給計画は、既存2施設への導入は確定ではなかった。現在まで協議の進め方に問題はなかったのか。

町長

既存の福祉施設は、特別養護老人ホームおよびデイサービスセンターの移転場所が決定以降に協議を行ってきた。最も熱を消費する特養等が設計段階で、段階的に必要な数量や金額等を算出した上で、施設整備や改修負担額をお示ししながら、適切に協議を進めてきたと考えています。

議員

既存福祉施設との協議で、施設改修の負担割合、自己負担や公費負担が前提条件となっているが、議会への事前説明や協議は行われたのか。

産業振興課長補佐

社会福祉法人が運営する建物については、町が建設し使用しているため、改修費の全額を町が負担します。もう一方は、株式会社のた

め、国や町の補助を入れ、4分の1の自己負担を考えています。

議員

私が指摘したいのは、福祉施設側が困難な実情からの改修と、町提案としての改修では意味が違う。

福祉施設で現状必要のない改修を公費で行い、導入条件となっていることから議会では主体的な協議を行えない。内部改修費の試算は。

産業振興課長補佐

ケアハウスは3200万円程度、夢ふうせん「ののか」は2000万円程度です。

議員

熱供給導入に向けた今後の話し合いで、今以上の配慮を検討する考えはあるのか。

産業振興課長

基本的に、現状の金額程度と考えています。

議員

熱供給事業の主な目的は、新設する特養が中心で、期限が決まっている計画への導入は、町から施設側へ効果を押しつけているように見える。木質ペレットやチップを生産するまでには、多くの「化石燃料」も必要であり、理念や理想より、適度なバランスで見直してほしいと思うが。

町長

特養の建設地が決まり、隣接する福祉施設に対しては、森林由来の取り組みと補助制度の活用も含めて協議を行ってきました。

ご指摘にもありましたが、具体的な金額面の議会報告等が不足していたと思いますが、実施設計まで導入に向けて話し合いたいと思います。



ケアハウスつべつ

○木質バイオマス地域熱供給事業について
○道の駅あいおいについて



議員

木質バイオマス地域熱供給事業をどのように進めるのか

町長

達美地区での3か年事業で計画している

議員 事業計画の概要および事業費は。

町長

令和8年度は、実施設計とボイラーの調達と機械設備、令和9年度は、エネルギーセンター施設を建設し、令和10年度に完成としております。概算事業費は、8億5300万円を見込んでいます。

議員

熱供給センターの経営計画および収支計画は。

町長

単年の収入額は概算で1462万円を見込んでおり、支出の不足額については森林環境譲与税を財源とし、施設管理は津別町ペレット協同組合を指定管理者として考えています。



津別町木質バイオマスセンター

議員 当該事業の費用対効果は。

町長

計画段階であることから、各数値を取りまとめた上での費用対効果を明解に示すことはできません。

議員

事業をデザインビルド方式で進めたいとしているが、その根拠は。

町長

3か年による実施設計から本体工事等を一体的に発注するものです。メリットとしては、本工事を円滑に進めるため、工期短縮とコストの早期把握と縮小、設計から施工の一元化が図られます。

議員

「道の駅あいおい」は4月からどうなるのか

町長

フジタコーポレーションが指定管理者に

議員

道の駅あいおいは4月から株式会社フジタコーポレーション（苫小牧市）が指定管理者になるが、協定書の内容および協議はどう進んでいるのか。

町長

これまで内容の確認と調整を行ってきており、双方の担当者により協定書案を作成し、3月23日に協定締結を行う予定です。

議員

相生振興公社は、今後どうなるのか。

町長

これまで公社取締役会において解散のうえ精算する方向で整理されているところであり、道の駅あいおいの指定管理期間が本年3月31日までとなつていることから、その後正式な解散手続きが進められます。



相生総合交流ターミナル（道の駅あいおい）

ます。

議員

クマヤキの商標権については、今後どのように扱われるのか。また、地域への還元はないのか。

町長

クマヤキの製造販売事業はフジタコーポレーションへ継承することになりますが、商標権は町が権利を保有し、事業者からロイヤリティを受け取る形での運用を想定しています。

相生に住んでおられる方にさまざまな還元を考えていきます。



議員

行政と自治会との

協働の必要性の認識は

町長

自治会との協働は、

まちづくりに欠かせないもの

議員

津別町では、人口減少・高齢化が進む中で、住民と行政のつなぎ役や、地域の安全・福祉・防災等の基盤として自治会活動の重要度は増しているが、会員数の減少や役員の担い手不足などで地域コミュニティの維持が難しくなる地域がでてくるのが懸念される。行政と自治会との協働の必要性をどのように認識しているか。

町長

自治会との協働は、まちづくりに欠かせないものであると認識しています。行政サービスを推進する上で大きな役割を自治会は担っており、協働の関係を維持・強化することは、大変重要であると考えています。

議員

自治会活動として行っているごみの管理、高齢者等の見

守り、地域の中でのコミュニティ活動など、ある程度の戸数がないと存続できない活動もある。総合計画の外部評価での意見があるとおり、5年後、10年後を見据えた自治会活動の在り方について、町と自治会で協議を進めるべきではないか。



市街地区・春の道路一斉清掃

住民企画課長

人口減少に合わせ自治会戸数も減少しています。市街地の一部で合併の協議が進んでいることも聞いています。現状を把握するためにも、自治

会としての意見を伺いながら自治会連合会と先を見越した協議の場を設けていきたいと考えています。



津別町自治会連合会 総会

議員

自治会と行政の橋渡し役を担う地域担当連絡員制度の現状と課題はどのように考えているか。

町長

この制度の設置要綱は、平成26年3月に制定しましたが、それ以前から取り組まれており、「各地域におけるコミュニティ活動の支援および住民等との町の協議事項の推進」

を目的に、管理職員を各自治会・地域に1人以上配置しています。しかし、連絡員の趣旨や役割がうまく引き継がれていないケースがあるため、目的の再確認と在り方について点検を行い、自治会と顔の見える関係づくりを進めたいと考えています。

議員

自治会への運営交付金の増額や自治会再編交付金の創設など、財政支援拡充の考えおよび自治会活動のデジタル化を推進する支援の考えは。

町長

財政支援は、令和7年度で46自治会に運営交付金397万円を交付。施設維持交付金は25施設に155万円余りを交付しています。北見地域定住自立圏の4町の中で総額では多いですが、今後自治会活動と費用負担を把握し、行政としてできる支援を行い、持続可能な地域コミュニティの維持に向けて取り組んでいきます。自治会活動のデジタル化推進は、今後合併等で広範囲になることから必要だと考えています。



議員

「乗り入れ授業」の実態について

教育長

小学6年生を対象に、令和6年度より実施

議員

小学校から中学校への進学
に際し、新しい環境での学習
や生活に不適合を起こす、「中
一ギャップ」と呼ばれる現象
があります。この課題にどの
ように対処しようと考えてい
るのか、次の2点について伺
います。

①オホーツク管内で広がっ
ている、中学校の教員が小学
校に向いて授業をする「乗
り入れ授業」について。

②教育行政方針にありまし
た「小中連携推進計画」に基
づき取り組む内容と効果につ
いて。

教育長

①小学校段階から中学校教
員の専門性を生かした授業に
触れることで、小中学校を通
じた系統的・継続的な学習指
導の充実が期待され、進学後
の環境変化への負担軽減につ
ながります。

本町では小学6年生を対象
に令和6年度に英語、令和7
年度に体育の「乗り入れ授
業」を実施しました。

②「小中連携推進計画」で
は、小中学校が共通して目指
す子ども像「自ら取り組む」
を各校のブランドデザインに
位置づけ、小学校から中学校
への円滑な接続と義務教育9
年間の確かな学びの保障を目
指し、両校が一体となって、
組織的、継続的に取り組み、
義務教育の集大成として目指
す15歳像の実現に近づけるた
めの指針としています。

議員

「中一ギャップ」をどのよ
うに認識されていますか。

教育長

教育行政方針にも書かせて
いただいています。文科省
でも行政的な用語ではなく、
通称的に使われ、分かりやす

い言葉として一般的に使われ
ています。

ギャップというと、ものす
ごく隔たりが大きく、壁のよ
うに聞こえます。そのような
言葉より、少し緩やかに進ん
でいると感じています。

確かに、小学校から中学校
への環境の変化や、思春期、
勉強が難しくなる等あると思
いますが、「中一ギャッ
プ」というほどの強いイメー
ジは、私としては持っていま
せん。

議員

小学校には「通級」教室
(学校内の個別サポート教
室)がありますが、中学校に
はなく、父母等の要望があれ
ば、検討したいとの答弁を以
前にいただいていたました。そ
の後の検討経過について伺
います。

教育長

通級希望も増えてきていま
す。中学校でも今回の人事の
関係で2人の教員が追加配置
ということになりますので、
1人の方は半分程度中学校に
行くことになると思います。

議員

中学生になり、思春期での
問題があるような答弁でした。
相談やケアの体制はどのよう
になっていますか。

教育長

今年度より、スクールカウ
ンセラーにも来ていただいで
います。また、小学校には
「ホッとるーむ」、中学校に
は「サポートルーム」という
部屋があり、そちらは教育相
談員が時間をそれぞれ週半分
程度対応しています。



津別小学校「ホッとるーむ」